幸せ

雲雀丘学園高等学校一年　大松（おおまつ）　詩音（しおん）

私の兄はダウン症候群です。そういうと「かわいそう」、「大変だね」と言う人がたくさんいます。しかし、兄は毎日とても楽しそうに過ごしています。今日の仕事頑張ったよと笑顔で報告してきたり、音楽を聴いてノリノリで歌ったり、ご飯を食べただけでうまいうまいと嬉しそうにしています。また、持ち前の明るさで周りの人をいつも笑顔にしている兄の姿を見ると、不自由なことや思うようにいかないことがあると思うのに、周りの人よりなぜ幸せそうなのだろうと不思議に感じていました。しかし、ある人から「努力をするから自分を好きになることができ、楽しむことができる」と聴き、納得しました。彼らは彼らのやり方でたくさんのことを学び、成長して生きているから楽しいのだと思いました。

私は、小さい頃よく兄と一緒に遊び、兄が一人で行うのが難しいことを手伝っていました。しかし、大きくなるにつれ、

どうしてこんなこともできないのかと思い始め、勉強などで忙しくなり、一緒に遊ぶことも減っていきました。そんな中、ある出来事がありました。私が中学生のとき、本当にしんどくてつらいことがあり、一日学校を休んだことがありました。その時、兄は優しい笑顔で「大丈夫。学校に行こう。」と私に言いました。兄が私の気持ちを察して、励ましてくれたことに本当に驚きました。私はその言葉に支えられ、次の日から学校に行けるようになりました。私は、今まで、兄のことを全く分かっていませんでした。むしろ兄のほうが私のことを理解してくれています。兄は、人の気持ちを察し、その人に寄り添ってくれます。

兄は、自分から色々な話をします。私は何か思っても自分からはあまり口に出さず、相手から聞かれたら答えることが多いので、自分から必ず挨拶し、相手に自分の思いを必死に伝えようとしている兄を尊敬します。

兄がいるから私たち家族は幸せでいられます。また、兄も相変わらず毎日を楽しく過ごしています。人の幸せに障がいのあるなしは関係ないのです。